

8.13. 文化財

8.13.1. 現況調査

(1) 調査内容

文化財の現況調査は、表 8.13-1 に示すとおり、「指定文化財等の状況」及び「文化財周辺の状況」を把握した。

表 8.13-1 調査内容

調査内容	
指定文化財等の状況	・指定文化財及びこれに準じる歴史的・文化的資源の分布 ・指定文化財の内容、特性、保存状況
文化財周辺の状況	・文化財周辺の環境の分布 ・文化財の利用状況

(2) 調査方法

調査方法は、表 8.13-2 に示すとおりとした。

表 8.13-2 調査方法

調査項目	調査方法
指定文化財等の状況	以下に示す既存文献資料により、指定文化財等の状況、文化財周辺の状況について把握した。 ・「宮城県遺跡地図」（平成 5 年 3 月宮城県教育委員会）
文化財周辺の状況	現地調査により、指定文化財等の雰囲気形成している要素を写真撮影により把握した。

(3) 調査地域及び調査地点

調査地域は、事業予定地及び周辺地域において、文化財等に対する影響が想定される地域とした。

調査地点は、図 8.13-1 に示す文化財等が確認されている地点とした。

(4) 調査期間等

現地調査は、表 8.13-3 に示す日程で実施した。

表 8.13-3 調査時期

調査地点	調査時期
事業予定地内全域	平成 23 年 6 月 6 日(写真撮影含む)

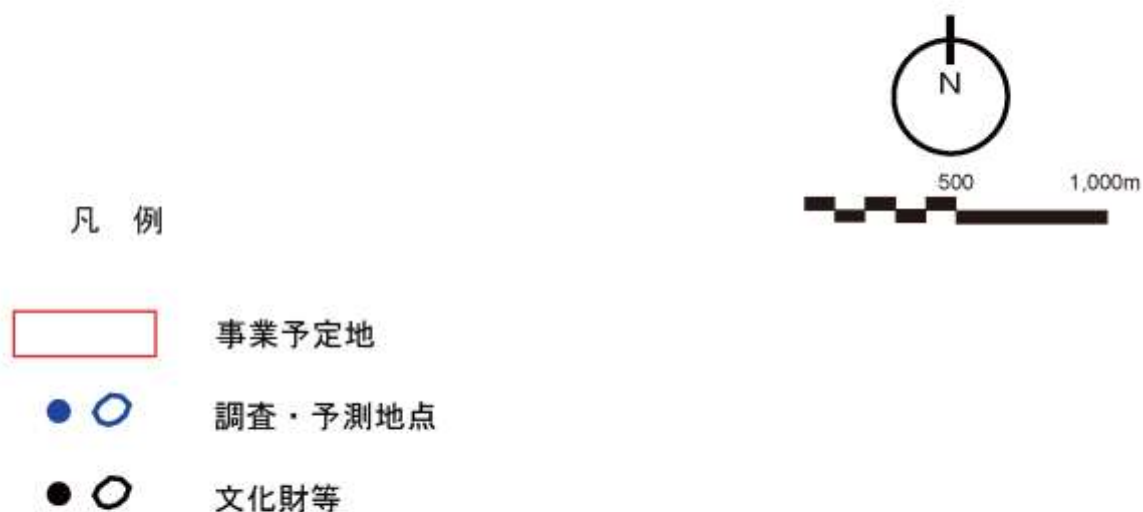
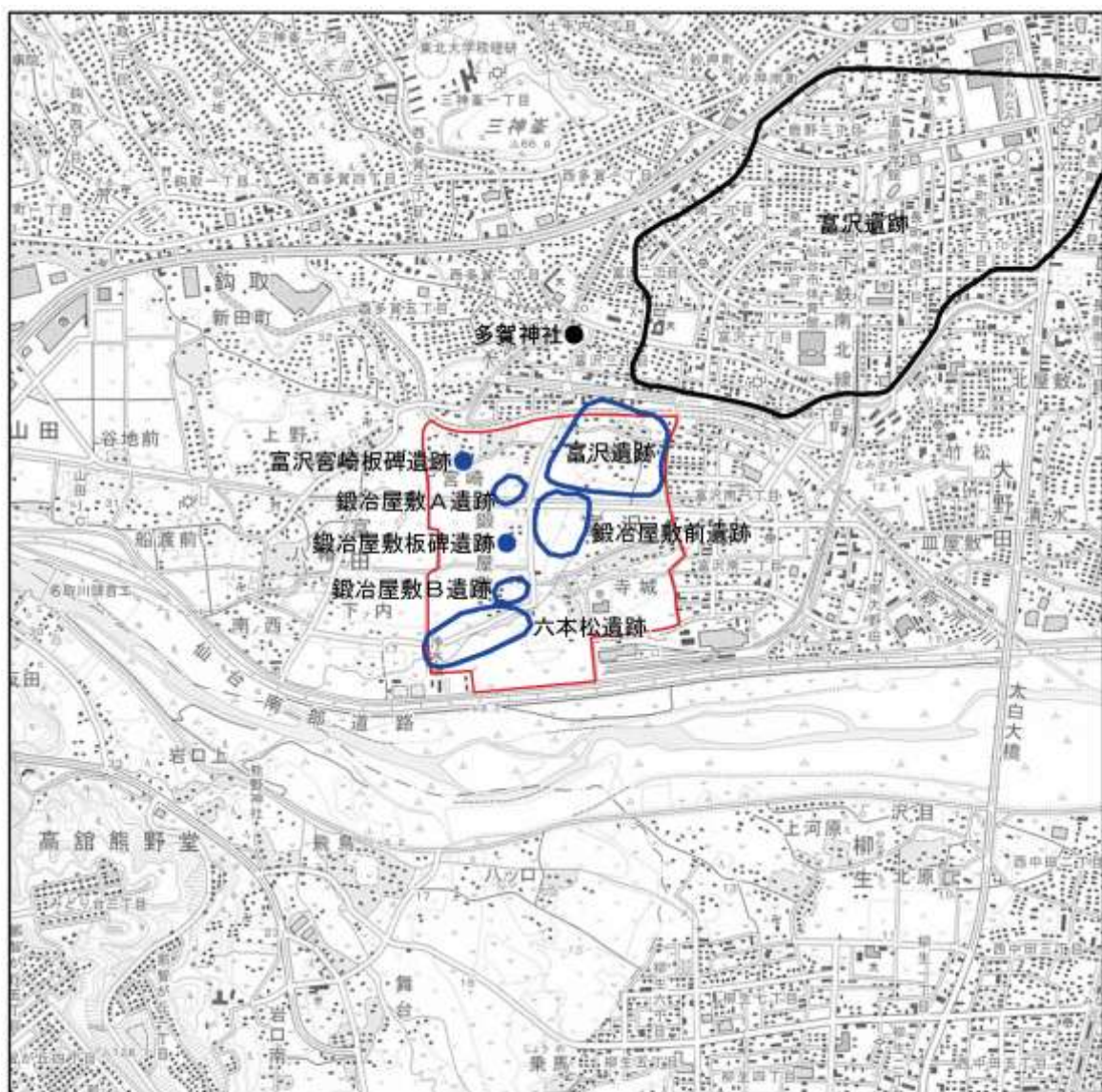


図 8.13-1 文化財調査地点位置図

(5) 調査結果

既存資料調査の結果、調査地域において指定文化財は存在しない。なお、準じる資源として、事業予定地近傍に多賀神社、富沢遺跡が、事業予定地内に、鍛冶屋敷A遺跡、鍛冶屋敷B遺跡、六本松遺跡、富沢館跡、鍛冶屋敷前遺跡、富沢宮崎板碑遺跡、鍛冶屋敷石碑遺跡がある。事業予定地内の文化財等の状況を表 8.13-4(1)～(7)に示す。

表 8.13-4(1) 指定文化財等の状況


地点 番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	地目	出土品	文献・ その他
①	鍛冶屋敷A遺跡 (縄文, 古代)	富田字 熊野前	自然 堤防	包含地	縄文, 古代	畑	土師器, 須 恵器, 石器	—
環 境 の 状 況	①時 代：縄文、古代 ②所在地：富田字熊野前 ③種 別：包含地 ④地 目：畑							
	<ul style="list-style-type: none">鍛冶屋敷 A 遺跡は遺跡地図では、市道富沢山田線と熊野宮橋から南下する市道との交差点の角地に位置する。区域のほとんどが畑地として利用されており、11 棟のビニールハウスが確認された。また、西側の一部が水田に係るものと確認された。区域内に樹木は確認されない。区域は沿道業務用地として計画されている。							
状 況 写 真								

表 8.13-4(2) 指定文化財等の状況

地点 番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	地目	出土品	文献・ その他
②	鍛冶屋敷B遺跡 (縄文, 古代)	富田字 鍛冶屋 敷	自然 堤防	包含地	縄文, 古代	畑	剥片, 土師 器(表杉ノ 入), 須恵器	—
環境 の 状 況	①時 代：縄文、古代 ②所在地：富田字鍛冶屋敷 ③種 別：包含地 ④地 目：畑							
	<ul style="list-style-type: none">・鍛冶屋敷 B 遺跡は遺跡地図では、六本松遺跡に隣接して鍛冶屋敷 A 遺跡とほぼ同様の規模である。・区域内はほとんどが住宅地敷地、事務所になっており、一部畑がみられる。西側の水田が一部区域に含まれている。・区域には一部竹林が確認される。・区域は住宅用地として計画されている。							
状況 写 真								

表 8.13-4(3) 指定文化財等の状況


地点 番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	地目	出土品	文献・ その他
③	六本松遺跡 (古代)	富田字京ノ南	自然 堤防	包含 地	古代	畑	土師器	—
環境 の 状 況	①時 代：古代 ②所在地：富田字京ノ南 ③種 別：包含地 ④地 目：畑							
	<ul style="list-style-type: none">・六本松遺跡は遺跡地図では、富田浄水場から北東に伸びる市道を中心に両側に約 150m幅、長さ約 400mの範囲である。・範囲の東側には住宅が 4 件とビニールハウスが確認される。また、道路と水路の間を整地し駐車場として利用されている。・区域内の水路沿いには雑種地（未利用地）が点在しているが、ほとんどは畑地として利用されている。・区域の東側には、樹林地が確認され、その一部が含まれる。・区域は住宅地として計画され、区域東側の部分は、公園として計画されている。							
状況 写 真								

表 8.13-4(4) 指定文化財等の状況



地点 番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	地目	出土品	文献・ その他
④	富沢館跡 (中世)	富沢字館	自然 堤防	城館	室町	畑 宅地	—	75.117
環境 の 状 況	①時 代：中世（室町） ②所在地：富沢字館 ③種 別：城館 ④地 目：畑、宅地							
	<ul style="list-style-type: none">・富沢館跡は遺跡地図では、概ね笹川と市道富沢山田線の間、東が事業予定地の東側境界、西が熊野宮橋から南下する市道に囲まれた区域に位置している。・遺跡区域のほぼ中央には環状に住宅が位置して、その中央には竹を主とした樹林地が確認される。・住宅を除く土地利用の状況は、東側の一部が水田として耕作されているほかは、畑地として利用されている。なお、区域の南側、市道富沢山田線の中央にはバスの回転所として利用している所がある。・区域内のほぼ中心部は公園用地として計画されている。							
状況 写 真								

表 8.13-4 (5) 指定文化財等の状況

地点 番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	地目	出土品	文献・ その他
⑤	鍛冶屋敷前 遺跡	富沢字 鍛冶屋 敷前ほ か		集落跡, 包含地	縄文時 代・奈良 時代・平 安時代・ 中世	—	—	—
環 境 の 状 況	①時代：縄文時代・奈良時代・ 平安時代・中世 ②所在地：富沢字鍛冶屋敷前ほ か ③種別：集落跡、包含地 ④地目：							
	<ul style="list-style-type: none">鍛冶屋敷前遺跡は遺跡地図では、概ね富沢山田線を含みこれより南側に位置する。東は事業予定地の農業用水路、西は熊野宮橋から南下する市道に囲まれた区域に位置している。区域の西側には、農機具倉庫、住宅が1件、ビニールハウスが11棟確認された。倉庫、住宅及びビニールハウスの敷地を除くと、水田と畑地の農用地として利用されている。東側に位置する農業用水路沿いには畑地として利用され、この畑地の西側は水田として利用されている。区域は沿道業務用地及び住宅地として計画されている。							
状 況 写 真								

表 8.13-4 (6) 指定文化財等の状況

地点 番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	地目	出土品	文献・ その他
⑥	富沢宮崎板 碑遺跡	—	—	—	—	—	—	—
環 境 の 状 況	①保存状況：コンクリート固定 ②所在地：富田字宮崎地内 ③形状等：高さ45.7cm、幅29.2cm、 厚さ16.8cm ④彫法：薬研彫 尖り鑿で彫りこみ、その 後簡単に研磨							
	<ul style="list-style-type: none">・ 策川、木流堀合流地点より、南側約150mの地点に位置する。住宅敷地の南西角にコンクリートブロックに囲まれ、コンクリート基礎上に設置されている。・ 以前は畑の一角にあったが、道路の拡張工事に伴い現在の位置に移設した。・ 板碑は中世につくられた石塔といわれているが、この板碑の年代は不明である。							
状 況 写 真								

表 8.13-4(7) 指定文化財等の状況

地点 番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	地目	出土品	文献・ その他
⑦	鍛冶屋敷板 碑遺跡	—	—	—	—	—	—	—
環 境 の 状 況	①年代：文永 11 年（1274 年）2 月 鎌倉時代 ②保存状況：コンクリート固定 ②所在地：富田字鍛冶屋敷 16、 庄子家屋敷内 ③形状等：高さ 83.0cm、幅 43.3cm、 厚さ 22.0cm ④彫法：薬研彫 尖り鑿で彫りこむ							
	<ul style="list-style-type: none">・市道富沢山田線より、南側約 200mの地点に位置する。庄子家敷地の南西角に小祠の中に収められ、コンクリート基礎上に設置されている。・彫刻印が明瞭であるため、年代が容易に特定できる。また、設置場所より移設した経緯はない。							
状 況 写 真								

8.13.2. 予測

(1) 工事による影響（切土・盛土・掘削等）

ア 予測内容

事業予定地及びその周辺における工事中の指定文化財等への影響の程度、文化財等の利用への影響の程度について予測した。

イ 予測地域及び予測地点

予測地域は、事業予定地とその周辺とし、予測地点は、調査地点と同様とした。

ウ 予測時期

予測時期は、工事の影響が最大となる時期とした。

エ 予測方法

予測方法は、文化財等の現況解析結果と、事業計画の重ね合わせ及び事例の引用・解析による。

オ 予測結果

工事中の指定文化財等への影響として、確認されている鍛冶屋敷A遺跡、鍛冶屋敷B遺跡、六本松遺跡、富沢館跡、鍛冶屋敷前遺跡の5ヶ所の埋蔵文化財包蔵地については、確認されている範囲が本事業により盛土される範囲に含まれており、現状のまま保全される。なお、事業実施に際しては、文化財保護法等に基づき、工事実施前に適切な試掘調査を行い、必要に応じて本調査により、位置、分布、状況等を確認・記録することから、埋蔵文化財への影響は小さいと予測する。

また、富沢宮崎板碑遺跡、鍛冶屋敷石碑遺跡の2ヶ所の遺跡については、造成による改変はない場所に位置しており、現況のまま保全されること、現況の道路脇や民有地に位置していることから現況の利用状況と大きな変化はないことから影響はないと予測した。

8.13.3. 環境の保全及び創造のための措置

(1) 工事による影響

ア 保全方針の検討

工事中的影響として切土・盛土・掘削等に伴う改変による影響については、工事実施前に試掘調査を行い、影響の有無を確認して工事を行うことを保全方針としている。

イ 環境の保全及び創造のための措置の検討結果

切土・盛土・掘削等に伴う改変による環境の保全のための措置として、以下に示すとおりである。

①試掘調査の実施

- ・埋蔵文化財包蔵地に対して、工事実施前に試掘調査を実施し、文化財の有無を確認し、文化財保護法に準拠して適切に対処する。

表 8.13-5 環境の保全のための措置の検討結果整理

環境保全措置	試掘調査の実施
実施期間	工事中
実施位置	事業予定地内
内 容	埋蔵文化財包蔵地に対して、工事実施前に試掘調査を実施し、文化財の有無を確認し、文化財保護法に準拠して適切に対処する。
効果及び変化	効果を定量的に把握できないが、実行可能な範囲で影響を回避できる。
副次的な影響	なし

8.13.4. 評価

(1) 工事による影響（切土・盛土・掘削等）

ア 回避・低減に係る評価

（ア）評価方法

調査及び予測の結果並びに保全対策を踏まえ、指定文化財等への影響が、事業者の実行可能な範囲で回避され、又は低減されているものであるか否かについての検討による。

（イ）評価結果

5ヶ所の埋蔵文化財包蔵地については、本事業により盛土され、現状のまま保全される。また、2ヶ所の遺跡については、本事業の造成区域には含まれてなく、現況のまま保全され、現況の利用状況と大きな変化はないと予測された。

なお、環境の保全のための措置として、工事实施前に試掘調査を行い、文化財の有無を確認して工事を行うことから、指定文化財等への影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

イ 基準や目標との整合に係る評価

（ア）評価方法

予測結果が以下に示す基準や目標との整合が図られているかを評価する。

- ・「指定文化財等への影響を未然に防止すること」

（イ）評価結果

指定文化財等への影響は、事業の実施前に関係機関と協議の上、試掘調査等を行うことから、「指定文化財等への影響を未然に防止すること」の整合は図られているものと評価する。